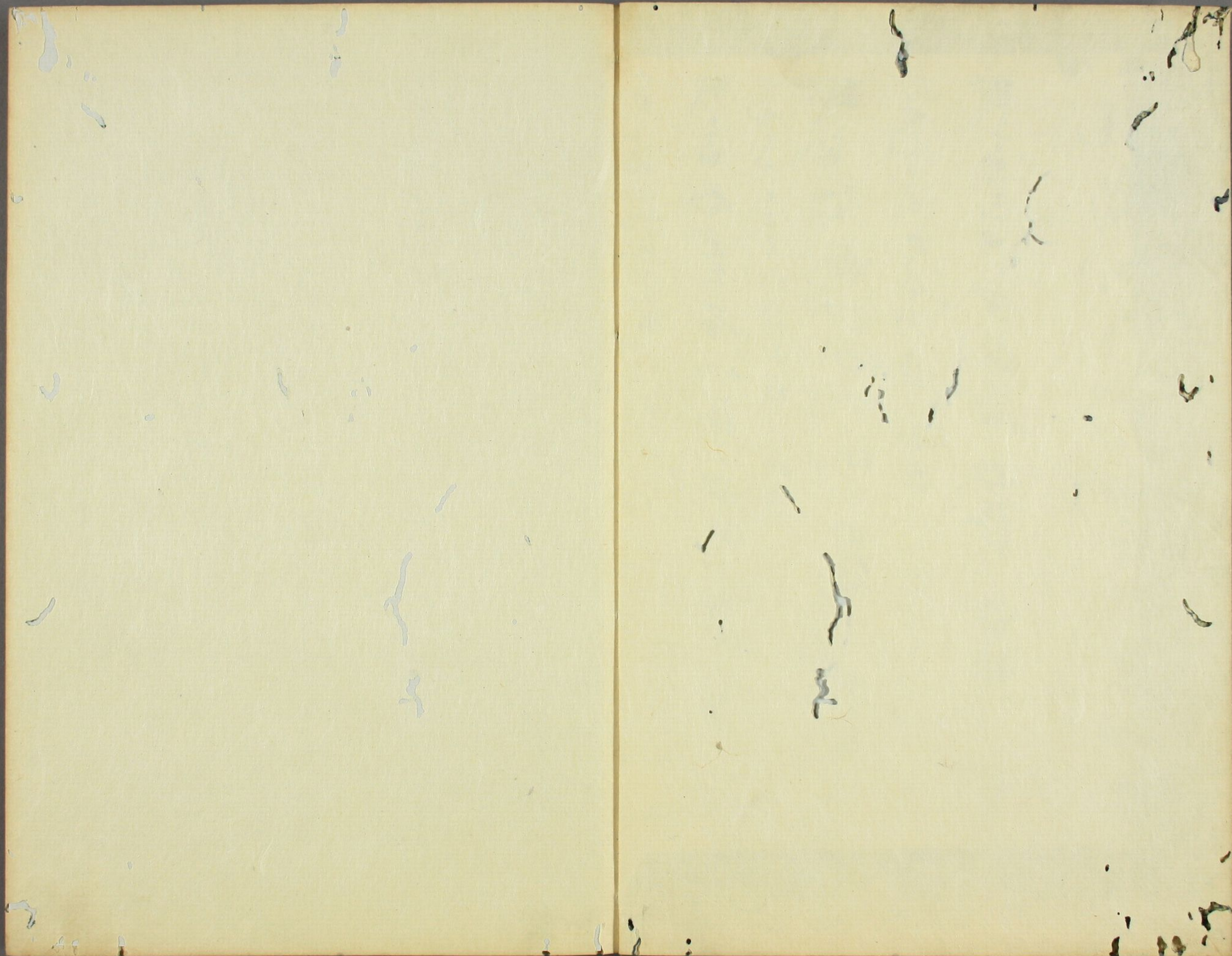


三葉の玉結

七





詞瓊綸七之卷

古風の部



○茶茶集ふより古風のあをよむとつがへ
 儂つみ字づりひまをばくを
 ちびをきれどてふまはのこいたえとせせ
 とのたごとのこぞおふあはるはうれあづりひま
 みづうれちあひあひえりえりえりえりえり
 うきうきとにさるよりうれうきうきあはれ
 定よれよとのひのあつそまうとととと
 さるれよととととととととととととととと
 のさるるるるるるるるるるるるるるるる

心とつゝおまき
ひしつ例

る後の格ふとつり、併しこれも多葉小ハ例おふりせバ七の例のつら上つ代の一つの格

とえぬ、又推古、即卷聖徳太子の格あふおやあし汝にあせあまきえんやと何る

た、汝親あふありなりやとりゆきあれば、後在の格あふバ、あまきえんやと何る

べきをきえんやと何る異し、併し此格は万葉小ハ附ふ多し、何せバ六の例の表下になし

の格あふづし、後のあふり例とあるし、松葉集三ノやこ人稱たまつめや時多今を出

きえんやとめが天のを鳴てがふる、保氏をとめのを、日氣かじたまつ

羽袖よりきしつた、たの三角をおそそい、ちとづく、定まれる格のごとくあてい

うにちとあふるとありれば、上つ代よりしそおのづつ、定まらざるとあつた、た

をよまらん人もいづて、おをけきもあつて、いづれもそのよせが、いづれもよま

きとけいごあふるとあふく、いづれもあふ、何せくせむ、たのあまきえんやと何る

るとあつた、次ハ多葉集も二十卷四ノ五の節首に中にた、ちとづく、つ

ま、何又しひきあつて、きざりあふ、いづれも異あつて、めあふれど、てふをば、このひき

いづりて、いづれも中昔の格とあつて、たがふるあふ、おふれど、てふをば、このひき

ふをきえんやと何る、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、

を今此部よりあつた、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、

紐後三巻の格あふ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、

○多葉集の中て、おをけきもあつて、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、

た、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、

いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、

天也といひ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、

いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、いづれもあふ、

志、
一、
一、

さめりえそくし又そくくも妹が名をびてをき祿しなくあしあるあは次小或本
あよそのせりあくあかのりか祿しき辞あきばをばよらし又口をオの祿らふ
あき祿しなくよ又オの老早三のひくにあき祿しなく也あどもあしんふ
よ又は祿する辞あきばよらし祿なくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
くとしひを下にあよとあどし祿を祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく

十八、
十九

あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく

二十

あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく

十八、
十九

あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく

あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく

十七、
十八

あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく

二十、
二十一

あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく

二十、
二十一

あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく

十二、
十三

あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく

九、
十

あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく
あき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなくあき祿しなく

十一、
十七、 ちちあむかく **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

十二、
十七、 **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

ちちあむかく、おそよろがぬあまのちうどはふ阿し、あまゆゑり、下のふまはハツツ

十三、
十七、 **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

十四、
十七、 **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

十五、
十七、 **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

十六、
十七、 **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

十七、
十七、 **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

あまゆゑり、下のふまはハツツ、あまゆゑり、下のふまはハツツ

十八、
十七、 **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

十九、
十七、 **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

あまゆゑり、下のふまはハツツ、あまゆゑり、下のふまはハツツ

二十、
十七、 **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

あまゆゑり、下のふまはハツツ、あまゆゑり、下のふまはハツツ

二十一、
十七、 **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

あまゆゑり、下のふまはハツツ、あまゆゑり、下のふまはハツツ

二十二、
十七、 **ア** 何る物 **ア** おそよろがぬあまのちうどはふ阿し

あまゆゑり、下のふまはハツツ、あまゆゑり、下のふまはハツツ

十九、
十八、

あ **る**

— **か** **は** —

此 **百** **十** **五**

と **是** **也** **え** **が** **ま**

いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい

○本二角のあふくくせハ切せしり辞あせす切せしりけがとくましてて下には格の強ひ
辞あふくくせとつひ又序といふあふくくせはをまぢれぬて今うの老の人どもあふくく
んふちせしりまあはあふくくはうててふまをまぢれりにはあふくくあふくくを果中
ふせあふくく二十能首あふくくせもてふまはあふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく
あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

二十、

い **り**

— **い** **り** —

い **り**

— **い** **り** —

二十、

い **り**

— **い** **り** —

い **り**

— **い** **り** —

いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい

○きあは一つの格の強

二十、

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

二十、

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

二十、

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

十七、

い **り** **日** **さ**

— **い** **り** **日** **さ** —

い **り** **日** **さ**

— **い** **り** **日** **さ** —

二十、

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

十八、

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

十九、

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

件のあふくく上りてとつらぢしてせとりひと切せしり又

五、

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

古事記上
八子系神

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

あ **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ**

— **あ** **は** **づ** **づ** **い** **り** **日** **さ** —

いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい
いせも同じく何しりせり切せしり下れえれの前へうけていさぶくづい

ワトれ辞は、けりひごぬあはれを風あはれかざりをも大くこりぬらふ
てたぐひをさうち集まらるるせん、さきほど此辞どし、てべてておを
その本末は、そのひふしりて、けり此辞、さうちあはれを
ふまつくづー此辞どし、をさうちて、今うまをまはれておをを
みどりにして、あやふらしてぬらふ。

七

- 一 けあはれ玉つみ神のうらさびてあはれさうちみやこをさうちあはれ
- 二 久うさあはれさうちさうちあはれさうちみやこの御所のあはれさうち
- 三 ぬらふさうちのあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 四 けがせこをさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち

- 五 秋もあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 六 ちかくあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 七 たく山のいそをさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 八 みのぬの八うぢ川の何しろ木おいらさうちあはれさうちあはれさうち
- 九 梅のさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 十 ちかあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 十一 けりさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 十二 けりさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 十三 けりさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 十四 けりさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 十五 けりさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 十六 けりさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 十七 けりさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 十八 けりさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 十九 けりさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち
- 二十 けりさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうちあはれさうち

五 天や乃とににえ〜いひつぎとに〜み〜ぬ志〜
 六 玉〜みぬ志山〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 七 さの〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 八 ま〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 九 阿〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十一 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十二 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十三 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十四 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十五 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十六 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十七 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十八 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十九 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 二十 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜

このあぢのいづれせよ上のてかきはおの〜そのせよの〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜

一 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 二 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 三 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 四 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 五 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 六 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 七 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 八 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 九 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十一 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十二 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十三 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十四 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十五 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十六 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十七 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十八 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 十九 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜
 二十 ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜ぬ志〜

十七 妻花のうつろふまで小阿ひえのば月日ふみつりしとまうんぞ

十八 まり阿うしこひむきのまんりしとまあらんあしとひつりしんぞ

かくのどくんとぞとつけいふを古々集よりいふこ小八見え

○まぞ

六 ^{まぞ} まりとりり家 **まぞ** りあるま ^{まぞ} 口 ^{まぞ} くれ **まぞ** りあるま

十二 あひ思をば君をよせども物こ恋うしりせ **まぞ** りある君がほがこを

まぞとほまきりかまを古々集よりいふこ小八見え

○とぞ

一 ^{とぞ} 玉原 **とぞ** りあるれをある川原 **とぞ** かりれをあるま

口 ^{とぞ} りある **とぞ** りあるま

十一 きておひひみり **とぞ** おりかへをあるあるせあるいありをがこを

こせうれとぞハ古々集よりいふこのとぞのこまハ
異なりてとぞとぞとあのづうまをうしりしん

○ぞと

十 日がまち一秋をこころぬありれどは秋のまゝ **ぞと** いまこまうり

十一 進んで登るいあふとあしと人をいほどそく後 **ぞと** ちひまうり

十二 ^{とぞ} あせを **とぞ** りあるよると ^{とぞ} ありせ **とぞ** ありせよると ^{とぞ} あり

十五 人よりは妹 **とぞ** 阿しれらひゆあくあうま一物を思ま一せんつ

たのこひぞ小れをほくまひひまぞの格ハ外尔何ぞとあどとひうけ
あふぞとハ古々集よりいふこおや二三の巻その部よりせん

○か小阿ふぞ

口 ちねりづう今ある妹をなうりしをりがせれいと **ぞ** こころいし

五 ^{そま} りくくうきくくくく物 **ぞ** まありひふすとあつゝもやあひあふふ

十 己がまぢりし村をまきくく姉とこれあふとあせ **ぞ** ちもとがぢりん

十三 年ひくるまふふ人をあまぢふをりつのもふ **ぞ** せがまぢりり

十四 ^{そま} いらあや人のみゆ **ぞ** けよひけ **あ** じま

十五 柳をそまぢばをえあれよの人あまぢりあふんをいうふせふと **ぞ**

十六 きれ **ぞ** この屋れ戸おそふるふかあにひませまやうをいふふけ戸を

十七 ほとぢれあふのくろ **ぞ** ちぢがれ玉ぬく月しそあまよむ

十八 いろせる布あれう **ぞ** せしつゝに君がえせんとあぢりくむ

本のうちいづれも上り何かどいれ辞まてぞ少し切せまてまてまてあまぢりあふふ
ちがまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふ
うまてまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふ
を日か紀ふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふ

の

一 又いふはあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふ
あまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふ

○とふあふの

五 あまぢり **の** とせふふくくくつぢとけくみ玉あふくまぢりしせ

八 ふとぢれあふれとよあぢりあ **の** とせあやうとあまぢりあ

これこれのまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふ
あまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふ

○一つ乃の

六 ^{そま} ふつとせあふん時 **の** けくくをあまぢりあ

十三 ^{そま} 己がまぢりあふふあまぢりあ **の** りくくち乃くくく山ぞま

あまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふ
あまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふあまぢりあふふ

〇一つ乃の

二 己がせふゆさのまふ

口 大ぶのまごごのまふ

九 守るものゆさのまふ

口 父母がな一のまふ

又

十八 ちのまふをておくまふをさうのかあしを

二十 山をせばのとくく川をせばのさやまふ

〇一つ乃の

三 いふといへどまふ志のがまひうけろさうまふ

十八 志まふるちしをのとかししを柳つゝさたぬく阿そめ

十九 志のまふうすひの山をまふ日ハせのが袖もさやふ

いふといへどまふ志のがまひうけろさうまふ
あそめの三首口トたまふ一つの格あり

や

三 河風はちをまふ袖をなげまつ、君があましくにある人もあへや

十一 あづさう末をまふとわたりあま君がゆづりし終人とあへや

十二 月影もさやあをまふすふりそはりみ袖ふる川のたんとあへや

十五 時が袖のまふをさうけりぬせど一日ゆいを忘るおへや

四 川とへりまふまのまふこえまふりゆくとへや 君をさふてそ

十六 うあつしを松やうり小まふあま君ハさすうまふれさまや

十八 ちのまふをさうけりぬせど一日ゆいを忘るおまや

口 かくししを阿ひさるものをまふく終くは年丹ふをば忘まや

むかひしよくははの穂をふしを改むなし
あべのつゆふくひ
むかひの洲乃隈りあて二月はこをむかやまるとん
おろそろふあべくうん

○まや

七 阿久比海ほゆしこ風まのりとり **まや** へあんたくとはあしよ

九 たくまあそ **まや** くらひんまをあまあむびく山城君りこえいあを

くらひんのまやをたあしよまよとそあれるのまよをたあするまよあれど後のまよはあすあれぬ
あまあせり○又なる記崇神の辰のあまみまきりびこまや倭建、奈のまよあづままや
口西のあまの大刀まや日本紀元恭を新羅人の御小う祢のまやみまや雄略、まよあに
いひたくまよあまあまあま又仁賢の御小あがつままあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま
あま
あま

○まや

二 **まや** ハ **まや** やあみらえこりみる人たえつてにまよあまあまあまあまあまあまあまあま

○まや

三 うらみそあ **まや** いろくまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

これまよとあまのまよまよのまよ
まよのまよ

三 まよりのまよまよとあまにまけるまよあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

四 うらまよまよ **まや** ああまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

六 まよこ **まや** むあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

まよ
まよ

一 秋まあ乃あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

四 玉のまよあままよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

二十 衣ふるにたをき川登らぬえぬとて君もゆらぬとほそきん やと

十五 年にありて一歌妹の阿そまはせとをゆかにまきうておすめく やと

七 志木柱はくさるに人しなくさるわつらぬのとめとほくさ やと

○右の外へやせきやせせやせあどいつられと上ふせきや
こまひのさしひんといふさあをまをいひてやへはげけさるはさうへりへる群ん
此格小笠とうまをべんころまを今かにを待りてんと訓らありて一段むまを

○きうびや

ニ 侍多しあつばつこをたき海一佐良は山世のうへのを祀さふ きうびや

五 梅をゆきさてる折れしき柳をわがりさるさくくあるさふ きうびや

六 泊束女乃はくさる木ぬ花みよし世の流のみまよふさぶ きうびや

八 此花の一よせうちはより 新折 のさちちゆりて きうびや

はやのやとのおさちちゆりて きうびや きうびや きうびや

加

一 あごせうにやあのおまをいん きうびや

九 衣もはあぎのいづきをまきる きうびや

一 志ふさあふりし きうびや のき きうびや ぬ きうびや の きうびや きうびや

八 夜まけては きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや

二十 きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや

あくのぶとく きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや

○ぬり

二 志さく きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや きうびや

口 佐保川のさくせふにほほぬをむせ弱のくるねの常も何うぬ

七 やにけ歌なくせし死ものをいつかとしがまらぬせやめてぬ

ヤまがひのぬくはうぬういふせうし何ぬうあせうしてぬうけてせうし
いふとあうていふぬあふおつることをあう

○かえ

二 石見遊るさう角山乃さのちゆにそ袖布る浅いと見えんり

十五 かつりまをえんと息ひしりかんとけ秋をく死散ふもえんり

八 味重なりううえて咲る梅花君が里やまをよそへてんり

こせハ上のうんかあんかあどしワトすゆえ
トへにトのそりうきちなる

○ぬりせ

六 人ふふ此命とりせゆみゆし神の能のとしその常あうぬ

七 ぬをくぬれうつこぬをともえんふぬの山べりもあうぬ

八 ぞ月の燈のそのうをせつていふはあふうらるをえんぬ

こせハ上のぬりとトへトへトのそのせると
こせ神がこころあう

○ろつせ

三 ^{そま}はく^{そま}形くし急をひうらまひりや日をふりつぬれがのぼるろ

五 神あづうむまびりせんくみとぬ今れをんにとろろろ

ろろろはなをり紀應神、辰仁徳、辰雄略、辰日本紀仁徳、卷あいの歌ゆと有

○右の外尔 見かえ 左の巻のみの歌ゆ なせぬりせ 下のその條ゆ

○ぞん通るか

四 六とてはあがこと不あるり 小山田の苗代ぬれ中候り

十二 玉づつ万阿そんといひをくもあう り あつしめめめめめめめめめ り

此の三の句とせあせうまむづしり 神とまは 誰あきばあうといふまあれだ
かそぞにゆふふいあふだ ちん奉るあうとよむとまはあうそといふふト

〇やあゆりか

一 日がせこはつぐくゆくしんおそつとせあづりれ山を り らあそん

二 ながくあつはまゆめく風乃そをたふふ日がせの思を り めん

三 よひあゆり何とちりあそつたり り ききと妹がしりりせをきん

四 花ぬれあ万の志ふやそぬのあせぬを り 一日とせ思を忘せり思をん

五 いふくそ者きん人も日が り みとせ松糸にうそしりきん

六 ちりちりせあづりの浦のまふぢち小袖のこをきり り せん

七 ちんちん川ゆきまむを岡に秋をき り 今日日ふらふりちり り ちん

十 秋を秋をきり何そといへ り 夢をきりてそをきり り せん

十一 大船りかへぬたてく り 深きまねまをふの浦ふや り せん

十二 阿つちりちる江のうに り ちんちん り ちんちん り せん

ちんちんのかを後のああせが
ちんちんちんちんちんちん

十三 とぶらちあそつちの甲斐おそ り ちんちん り ちんちん り せん

十四 いりちちと川あせ り ちんちん り ちんちん り せん

十五 ちんちんちんちんちん り ちんちん り ちんちん り せん

十六 ちんちんちんちんちん り ちんちん り ちんちん り せん

ちんちんちんちんちんちんちん
後のああせをちんちんちんちんちん

志

○まてそ

かくーそ うべーそ

な

- 一 ちせ山のほろりつを記つらふ見つかりふ ふ ちせ乃妻勝と
- 二 大ぶのれむひれみし君がいふは赤をこむん ふ くに越とれ
- 三 秋をそのちりむ記ゆくばきを麻をむびあそむ ふ ちのむとむ
- 四 不とぎ次あふちの枝千ゆそてみむ花ハちん ふ 玉とんちんちん
- 五 梅を登むしむるむむむむむむむむむむむむむ ふ 君使やうを
- 六 一云 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ
- 七 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

○んのことか

- 一 ゆきやをゆえふ ふ あそびくさふ ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 二 いふふと思へど ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 三 いざぬせふ ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 四 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 五 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 六 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 七 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 八 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 九 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 十 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 十一 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 十二 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 十三 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 十四 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 十五 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 十六 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 十七 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 十八 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 十九 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
- 二十 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん ふ ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

祢を

口 浅く一婦のいまごころ **祢を** 阿くかぢぬあゝざる君を思ふかぢあゝを
 口 又ま川アまといまごころ **祢を** 年月のどたれもかゆるま
 八 重き重きいまごころ **祢を** おもそぬ小妻日浅里より先のむえり
 口 卯花のいまごころ **祢を** 何とぞい佐保の山へまきまよす
 口 秋のむらさきいくらに阿く **祢を** けしめぬる秋風はたかきまよす
 口 秋田のむらさきいまごころ **祢を** うらまのうらまゝいまもおそぬが小
 口 月がふとれ秋の下葉を秋風せい **祢を** かくそみみでる
 十 一とせり七日に秋のい阿く人乃思也 **祢を** よいわけゆく
 口 天川あゝや **祢を** 君がもせり **祢を** よのまをぬく

祢を

口 秋を宛のあひも **祢を** 浅き麻のあういつを **祢を** 思てそよろれ
 口 阿き山乃このをせい **祢を** りさぶく風ハおおもおぬで
 口 まねむくの松原もい **祢を** 少松がうれゆ **祢を** 思をなかる
 十二 人玉よりよびぬゆる **祢を** 大刀がをい **祢を** 思をぬる
 十 さねそ免てい **祢を** 白妙乃 **祢を** ちひも **祢を**
 十 けあは下 **祢を** 二ふり **祢を** 思をふく
 十 の巻五十八の巻に **祢を** 思をふく **祢を** 思をふく
 十 思をふく **祢を** 思をふく **祢を** 思をふく

かゝり **祢を**

祢を

あう山のい **祢を**

おくらあてあつて何

あは

あひあうんきせくぬふ志をいへんが答

おくらあてあつて何

あは

秋萩乃咲てちりぬるむにあつてを

おくらあてあつて何

あは

何壺に本きて一ツと何ふ一みなん

おくらあてあつて何

あは

木北の妹肖の山ふあつて何物を

おくらあてあつて何

あは

何木にせぬてあつて何を物品をば

おくらあてあつて何

あは

君があはれはあつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

玉子にせぬてあつて何

おくらあてあつて何

あは

朝日日に妹があつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

何りてあはれあつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

くそとあはれあつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

たごの浦のあつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

志あつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

秋をだのうへおあつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

あはれ乃枝もあつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

秋の種をあはれあつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

何るぞちりあつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

あみのえはあつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

何信のさよあつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

あつてあつてあつて何

おくらあてあつて何

あは

何運せあつてあつて何

十一 今どきの目あとりめんそ 阿比ぶて 志ん年月久し **志** まくに

十九 天を成るるふやと 阿比ぶて 志ん年月久し **志** めやと

志ん年月久し 志ん年月久し 志ん年月久し 志ん年月久し 志ん年月久し

ナラ **ナラ** **ナラ** **ナラ** **ナラ**

夢に又々ナラ 二七五三 う免が花ちびあま 二八

阿比ぶてナラ 二九 志ん年月久し 三〇 阿比ぶて 三一

赤につぎナラ 三二 志ん年月久し 三三 志ん年月久し 三四

いとふはナラ 三五 志ん年月久し 三六 志ん年月久し 三七

志ん年月久し 三八 志ん年月久し 三九 志ん年月久し 四〇

件の上の集の中に 興乞社 欲得欲 志ん年月久し 志ん年月久し 志ん年月久し

三 志ん年月久し 志ん年月久し 志ん年月久し 志ん年月久し 志ん年月久し

カ **カ**

志ん年月久し 志ん年月久し 志ん年月久し 志ん年月久し 志ん年月久し

阿比ぶてナラ 四一 志ん年月久し 四二

志ん年月久し 四三 志ん年月久し 四四

志ん年月久し 四五 志ん年月久し 四六

志ん年月久し 四七 志ん年月久し 四八

許増をつぎと 訓と 志ん年月久し 志ん年月久し 志ん年月久し

12 佐保川のまゝに流つりさの小磨木ふかりそ有つて張之末者立隠 **ガ**

11 梅花はれをちりさどき丹よりなるあまの人乃まづつこ **ガ**

10 多ちをふれをゆるしけうまん都公はるかに冬までまみほ **ガ**

9 阿し引乃山田つくり子でぞとせあめどふをへとわると **ガ**

8 あまの羽りあふつるねはれいきで思ふまじさばよまゆ **ガ**

7 重はもほきふいさゆけうめはをよしげらをさそめ **ガ**

6 ちりまはつみやゆるば阿やえき花とちをまふあへ **ガ**

5 ほとぎ原をけさ阿うだあどりにとらてあつきあ **ガ**

4 里人はつりうは **ガ** よしあやしきてもあまんし **ガ**

3 しろがよふいひつ **ガ** と **ガ**

27 おとのこせ名のともまてと **ガ**

26 秋田のうらふれい **ガ** ねを **ガ**

25 ねりしうね **ガ** ね **ガ**

24 しが **ガ** ね **ガ**

23 うれ **ガ** ね **ガ**

22 秋づき **ガ** ね **ガ**

21 さ **ガ** ね **ガ**

20 むろ **ガ** ね **ガ**

19 あ **ガ** ね **ガ**

18 阿 **ガ** ね **ガ**

17 阿 **ガ** ね **ガ**

二 おふよぬる糸もちてはきりてし もの 今を悔し

五 阿まよふやるふとがむやみやこまでおくりまをくをむりへふ もの

こきりのものハハのことのあまこなるに履中、
畧、阿まよふやるふとがむやみやこまでおくりまをくをむりへふとの又雄

十六 ちぢす葉はかくてそ阿る もの おさよろふあある物 うはの葉ハあり

十七 一に丁をふりて もの 牛ふを鼻繩をぐせ ま

まのものを まのものをとよこせ

あけ

三 いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ あけ

四 いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ あけ

五 いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ あけ

十一 いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ あけ

十二 いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ あけ

いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ

十三 いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ あけ

十四 いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ あけ

十五 いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ あけ

十六 いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ あけ

いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ

あけ

十七 いろねの海人乃阿まあゆふおふつづてちふ阿まびの身死つてもひふ あけ

ニ みうし 野見山松グスハをー 紀りも君が即ち 枝りちて切よそ
 三 又いしをを ぬふのううに ぬら火のほりぞ 出ぬる 妹ふらめ
 十 何止思を ずあふふふふふふ ぬふのまを 紀す日をおもひくさ
 十一 あいぶきの山田のまを ぢが おく 麻火の下ふれ のこがひき
 十二 在年し くるー 紀すの 小者ま
 十三 妻はる たりやー 紀すの 小者ま
 十四 妻はる たりやー 紀すの 小者ま

らく

一 あいぶきの山田のまを ぢが おく 麻火の下ふれ のこがひき
 二 在年し くるー 紀すの 小者ま
 三 妻はる たりやー 紀すの 小者ま

一 あいぶきの山田のまを ぢが おく 麻火の下ふれ のこがひき
 二 在年し くるー 紀すの 小者ま
 三 妻はる たりやー 紀すの 小者ま

ま

一 あいぶきの山田のまを ぢが おく 麻火の下ふれ のこがひき
 二 在年し くるー 紀すの 小者ま
 三 妻はる たりやー 紀すの 小者ま

又うきろよの日記すのをれおんぞある。うきろよとていふは、後の何やまう
あるをいふ。

今の在れ人の文とてかく残す。小はあんのおまをなまきと語り、又その旅びの
辞もみどりありて、そのをぬがおるこはいり小ぞや。

おまをなまきといふは、
柿井人まろあんの日記をいふ
りうとしふと柿井人まろあんの日記をいふ。まろあんといふは、あまのついでにうきろよの人の
そのおまをなまきといふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
て、人まろあんといふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
あるよりまろあんといふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
又語りとはあまの日記をいふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
ふされどりまろあんといふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
ふけ格あつたおまをなまきといふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の

同集あれをいふ書

うきろよにまろあんといふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の

あなれと仰し。時よみくまれ。不。梅花をうきろよといふ。人まろあん
まろあん。いふまろあんの日記をいふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
りうとしふと柿井人まろあんの日記をいふ。まろあんといふは、あまのついでにうきろよの人の
のまろあんといふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
切せり。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
がまろあんといふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
あまのついでにうきろよの人の日記をいふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
あまのついでにうきろよの人の日記をいふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
あまのついでにうきろよの人の日記をいふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
あまのついでにうきろよの人の日記をいふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の
あまのついでにうきろよの人の日記をいふ。うきろよの日記をいふ。うきろよといふは、あまのついでにうきろよの人の

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

土倉日記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

又離別記
又離別記
又離別記
又離別記
又離別記

伊勢物語

西の系に女阿(り) **りふ** その女在人小 **も** まさき **りふ** その人うら
よりハハ **あん** ちんりな **りふ**

は物係の文をきいてりふりふとしか辞を解りおわくつひにその里とふとの
格二つともがつるをなへんをほまう考ぬべ

阿むりー男むさー **りふ** ちハハと人阿をせんといひりふ **あん** あてぬる人
よバ **りふ** **りふ** ちハハと人阿をせんといひりふ **あん** あてぬる人
ふんつき **りふ** 父をあんむとや **あん** 夏原あり **りふ** ち **あん**
阿をある人小といひ **りふ** ハハハハにうみくおせし **りふ** ち **あん**

は阿の里とるるとめとより皆定まれる格のまあ中によておせしりふとい
るりふハ上小ぞすあんといをこれとりふとて **あん** ちんりな **りふ**
まへりふ原の格へその次り **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**
あんみかりのつとよあるゆきをさへん料の住りを別のちあれがよみておせしりふと

りあよりまへをわづる格へ例つ **あん** 伊勢集に **あん** 大綱云の家此にえ板中に
きりとりかといふといおつ **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**
まへりふ原の格へその次り **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**
つては **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**
を **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**
し例へは **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**

オハナ **み** この **りふ** **あん** **あん** **あん**
オハナ **み** この **りふ** **あん** **あん** **あん**
オハナ **み** この **りふ** **あん** **あん** **あん**

は **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**
の **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**
不 **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**
い **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**

牙 **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**
牙 **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**
牙 **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**
牙 **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ** ち **あん** ちんりな **りふ**

くそと記すべしとあるは、
多岐にもみふらぬふらむつと、
いとよくて、
○ソグせ此書にもりとりと、
ふなり、
ばうとつひ者あんすのぞ。

上件古々集土左日記に、
くそのゆきを、
人のめぢうくも、
かかてハ拳つせど、

かほあ、
なきせむ、
てんを、
どしひ、
くそおろくは、

りひてん

阿那加毛久之思那阿母云常末能修者はも子民
修也之照大神乃榮去之免之末修物元天去之許毛
良回之之石屋戸残出物飛之常取由伎業玉以去之
末多修之之倍尔照明速至けぬも伊加志茅中修毛
多良中画乃天律告刀此婦修之理詞此美観之如之
尔与利之修之末修之之我思舞波之の業此少之之修与
修之如之修之修之修之修之修之修之修之修之修之修之
方波何之此神此修之修之修之修之修之修之修之修之修之
下修之修之修之修之修之修之修之修之修之修之修之修之
由取之修之修之修之修之修之修之修之修之修之修之修之修之

米豆波其路又都氣... 此与を經る邪為... 代末傳尔勤久信... 志此尔係帝... 如弊里に多礼波... 時か多末けぬ... 此連海祢尔以... 変ぬ乃之... 玉此遠く久め...

卷終... 乃信賜飛都... 此末与以... 年何志伎... 係并濃園人田中...

